

事業活動実績報告書①

施設名	社会福祉法人砂原母の会 幼保連携型認定こども園すなはら	
教育理念	「一人ひとりが主役になる」 ・自然の中で全身を使い五感を育む ・赤ちゃんからお年寄りまで関わり合う生活 ・時間を忘れて遊ぶ ・ほんものの食事	
事業の区分 (5領域)	健康 人間関係 環境 言葉 表現	
1 事業名	園庭に昆虫や生き物をよびこむための、ビオトープづくりとグリーンコーナーづくり	
2 実施期間	令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日	

3 取組概要	(取組日) 令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 園庭生き物調査 毎月2回、1回2時間、園庭生き物調査を実施。 毎回調査後に職員と振り返りを行い、園庭の植物や生き物について教えてもらう。毎回調査データを提出してもらう。1年の終わりには実施報告書を作成し、ビオトープ作成前、作成時、作成後の比較を行う。	
	(取組日) 令和 6年 4月 25日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること むしむしクラブ① ・テーマ…「春の虫を見つけよう」 ・場所…都立水元公園 自然観察員と一緒に、モンシロチョウ・テントウムシ・ミツバチなどの昆虫や、四葉のクローバーを探す。また公園内の花や葉などの植物を使って「自然のビンゴ」を行う。	
	(取組日) 令和 5年 5月 30日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること むしむしクラブ② ・テーマ「春の草花であそんでみよう」 ・場所…都立水元公園 自然観察員と一緒に、クローバーを使った花かんむりやちょうちょ作り、タンポポの風車、オオバコ相撲など、身近な植物を使って遊ぶ。	
	(取組日) 令和 5年 6月 27日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること むしむしクラブ③ ・テーマ「初夏の虫とトンボを見つけよう」 ・場所…西沼公園 自然観察員と一緒にアゲハチョウやシオカラトンボなど、初夏に見られる昆虫を採集して、体のつくりや名前を覚える。	

3 取組概要

(取組日) 令和 5年 7月 25日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

むしむしクラブ④

・テーマ「セミとセミの抜け殻をみつけよう」
 ・場所…都立水元公園
 自然観察員と一緒にセミを採集して、鳴き声と名前を覚える。セミの抜け殻を集めてどの種類が多いかを調べる。



(取組日) 令和 5年 9月 26日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

むしむしクラブ⑤

・テーマ「鳴く虫とバッタを見つけてみよう」
 ・場所…都立水元公園
 自然観察員と一緒にコオロギやバッタを採集して名前や鳴き声、体のつくりを覚えるとともに、飼育の仕方を学ぶ。鳴く虫とバッタの標本を見て名前をおぼえる。



(取組日) 令和 5年 10月 31日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

むしむしクラブ⑥

・テーマ「秋の七草を見つけてみよう」
 ・場所…都立東綾瀬公園
 自然観察員と一緒に、「秋の七草」について学ぶ。自分が好き植物を7種類探して、「私の七草弁当」を作り、なぜその植物を選んだのか発表する。



(取組日) 令和 5年 11月 28日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

むしむしクラブ⑦

・テーマ「落葉と木の実であそんでみよう」
 ・場所…都立水元公園
 自然観察員と一緒にイチヨウやカエデの葉、様々な形の木の実やドングリなどを集めて、「自然のビンゴ」や「ドングリゲーム」で遊ぶ。



(取組日) 令和 5年 12月 12日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

むしむしクラブ⑧

・テーマ「冬越しする虫をみつけよう」
 ・場所…認定こども園すなはら(雨天のため)
 雨天のためこども園すなはらでの室内開催となったが、自然観察員の方が事前に用意したカブトムシの幼虫、ムカデ、ツキコメムシを持参してくれたため、実際に触る体験ができた。



(取組日) 令和 5年 3月 12日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

むしむしクラブ⑨

・テーマ「小さな春をみつけよう」
 ・場所…認定こども園すなはら(雨天のため)
 園庭に出て花びらや葉っぱなどを集めた。室内で、集めた草花を画用紙にひとつひとつ貼り、草花の名前や特徴を覚えてもらいながら「春の花図鑑」を作成した。



3 取組概要

(取組日) 令和 5年 7月 26日(午前)

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

自然遊びワークショップ第1回(子ども)

・テーマ「園庭で自然遊び」
 ・場所…認定こども園すなはらの園庭
 生態計画研究所の講師陣と一緒に、園庭の植物のにおいや手ざわりなど五感を使って遊びながら、普段遊んでいる自分たちの園庭の自然の面白さや不思議さを再発見する。



(取組日) 令和 5年 7月 26日(午後)

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

自然遊びワークショップ 第1回(職員)

・テーマ「ビオトープへの思いを膨らませる」
 ・場所…認定こども園すなはら
 午前中の活動を振り返り、子どもの姿や発見を職員間で共有する。園庭のこれからを対話しながら、ビオトープへの思いを膨らませる。



(取組日) 令和 5年 9月 27日(午前)

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

自然遊びワークショップ第2回(子ども)

・テーマ「夏の自然遊び」
 ・場所…西沼公園
 生態計画研究所の講師陣と一緒に、普段の散歩で利用している西沼公園に出かけ、地域の夏の自然で遊ぶ。草木や虫、鳥などの生き物に目を向け、季節の自然で遊びながら園庭との違いやつながりを感じる



(取組日) 令和 5年 9月 27日(午後)

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

自然遊びワークショップ第2回(職員)

・テーマ「ビオトープのアイデア出し」
 ・場所…認定こども園すなはら
 午前中の活動を振り返り、子どもの姿や発見を職員間で共有する。園庭ビオトープの事例紹介を聞いたのち、自然と遊びのブレインストーミングを行う。ビオトープへの期待をアイデアへとつなげていく。



(取組日) 令和 5年 10月 11日(午前)

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

自然遊びワークショップ第3回(子ども)

・テーマ「秋の自然遊び」
 ・場所…都立東綾瀬公園
 生態計画研究所の講師陣と一緒に、普段の散歩で利用している東綾瀬公園に出かけ、地域の秋の自然で遊ぶ。木の実や草の実等、生き物たちは地祇の季節や次の世代に命をつないでいることに気づく。



(取組日) 令和 5年 10月 11日(午後)

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

自然遊びワークショップ第3回(職員)

・テーマ「ビオトープのアイデアマッピング」
 ・場所…こども園すなはら
 午前中の活動を振り返り、子どもの姿や発見を職員間で共有する。第2回の職員の振り返りで出たアイデアをマッピングし、その場所での遊びをイメージしながらこれからのビオトープ作りを考える。



事業活動実績報告書②

施設名	社会福祉法人砂原母の会 幼保連携型認定こども園すなはら				
教育理念	「一人ひとりが主役になる」 ・自然の中で全身を使い五感を育む ・赤ちゃんからお年寄りまで関わり合う生活 ・時間を忘れて遊ぶ ・ほんものの食事				
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現				
1 事業名	園庭に昆虫や生き物をよびこむための、ビオトープづくりとグリーンコーナーづくり				
2 実施期間	令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日				

3	取組概要	(取組日) 通年 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 今日ニュートン(保育教諭が作成) 子どもたちの気づきや取り組みを、『今日のニュートン』という形で、発信している。(園内に掲示、ホームページに掲載) 日々の記録をまとめて発信することで、保護者にも教育保育の理念や目標が伝わっている。	
	(取組日) 通年 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 薬通信(保育教諭が作成) 保育教諭が1人1台常にスマートフォンを持参し、子どもたちの発見や子どもの学びの姿をスマートフォンで撮影。撮影したものは、保育の記録(年間指導計画、月案、週案、日案)のシステムに反映し、活動記録を残している。また、「今日のニュートン」や「薬通信」(活動を記録したおたより)を作成。		
	(取組日) 通年 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 薬新聞(子どもが作成) 保育教諭がスマートフォンで撮影した写真や、子どもがiPadで撮影した写真を使って、子どもたちがひこばえ新聞(壁新聞)を作成している。自分で撮影した写真を使うことで子どもたちの興味関心が言葉になり、思考力の芽生えにも繋がっている。また、薬新聞を子どもたちが作ることで、数量・図形・文字への関心も深まった。		
	(取組日) 通年 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 発見したことや観察した写真を電子黒板に映して共有しながら、保育教諭と子どもたちが、次の活動についての計画を立てた。幼児クラスの子どもたちはiPadを活用することで、誰がどのような箇所にもどのような興味や関心をもっているかを全員で共有することが出来た。同じものを対象しても興味や関心が少しずつ違うことを学んでいるため、子どもたちの意見をもとに全員で話し合うことができていた。		

3 取組概要	<p>(取組日) 令和 6年 1月 22日(午前)</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>-----</p> <p>自然遊びワークショップ第4回(子ども)</p> <p>・テーマ「トロ舟で水辺のビオトープづくり」</p> <p>・場所…こども園すなはら</p> <p>生態計画研究所の講師陣と一緒に、園庭を使って冬の生き物探しなどの自然観察を行った後、トロ舟でビオトープ池づくりを行なう。ビオトープに使う土づくりを行なったり、生き物が移動しやすいような石を配置したり、生き物が使いやすい池をつくる。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 3月 11日(午前)</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>-----</p> <p>自然遊びワークショップ第5回(子ども)</p> <p>・テーマ…「ビオトープをより生き物がすみやすい場所にする」</p> <p>・場所…足立区立八か村ファミリー公園、認定こども園すなはら</p> <p>生態計画研究所の講師陣と一緒に、ビオトープ池をより生き物の隠れ家となるような場所にする。粗朶やトンボの繁殖場所となる水草を設置する。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 2月 5日 ~ 令和 6年 2月 9日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>-----</p> <p>ハーブガーデン、花壇づくりワークショップ</p> <p>・テーマ「チョウが集まる花壇をつくる」</p> <p>・場所…認定こども園すなはら園庭</p> <p>建築業の株式会社マルオの職人が講師となり、子どもたちとハーブガーデンや花壇づくりを行う。子どもが考えた設計図をもとに、ものづくりの作業工程、必要な道具、使い方を教わりながら、製作した。水平器などの道具の使い方や原理も教えてもらった。</p>	
	<p>(取組日) 令和 6年 2月 26日 ~ 令和 6年 2月 29日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>-----</p> <p>グリーンコーナーづくりワークショップ</p> <p>・テーマ「愛着が持てるグリーンコーナーをつくる」</p> <p>建築業の株式会社マルオの職人が講師となり、電動工具を使って職員がレイストハット作りを行う。職員の手で作ることで、完成後の畑仕事が楽しくなるようにした。大中小様々なレイストハットができた。2トントラック1台分の土(1立米)を子どもたちが一輪車で運び、グリーンコーナーが完成した。</p>	
	<p>(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>-----</p>	<p style="text-align: center;">写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	<p>(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>-----</p>	<p style="text-align: center;">写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	<p>(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>-----</p>	<p style="text-align: center;">写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	<p>(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>-----</p>	<p style="text-align: center;">写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>

効果検証報告書

施設名	社会福祉法人砂原母の会 幼保連携型認定こども園すなはら
教育理念	「一人ひとりが主役になる」 ・自然の中で全身を使い五感を育む ・時間を忘れて遊ぶ ・赤ちゃんからお年寄りまで関わり合う生活 ・ほんものの食事

事業の区分(5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現
1 事業名	園庭に昆虫や生き物をよびこむための、ビオトープづくりとグリーンコーナー
2 事業概要	園庭に子どもたちと一緒にビオトープ池と菜園をつくり、自然を活用した幼児教育を実施する。

計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ①生態計画研究所の講師陣と、自然遊びワークショップ、ビオトープ池づくりを実施。(年5回) ②園庭生き物調査を実施。(毎月2回) ③自然観察の専門家によるむしむしクラブを実施。(毎月1回) ④現在園庭の一部にある畑を、建築のプロと共にグリーンコーナーに改修。 ⑤ビオトープづくりを通して経験したことを製作や歌や劇などにし、表現発表をする。
-----	--------	---

事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ①専門家と行うことで、子どもも職員も生物多様性を学びながらビオトープづくりを行うことができた。 ②園庭の植物や生き物をデータ化することで、ビオトープ作りでの変化を知ることができた。 ③専門家が行うむしむしクラブはとても面白く、子どもたちが生き物を好きになった。又、自分より小さい生き物への命の尊さを感じるようになった。 ④建築のプロから教えてもらうことで、道具の使い方やものづくりの楽しさを知った。 ⑤多様な表現の場が出来、子ども一人ひとりが主役になる場面を作れた。
-----	-------------	---

計画時	4 事業のねらい	①子どもが自然とふれあう体験を重視し、準備・計画段階から管理・育成段階まで子どもを中心に進めていくことで、目の前にある事物や事象に関心を寄せ、探求的な学びを行う。 ②園庭に多様な生き物が生息できるビオトープ池をつくることにより、地域の自然の復元と自然生態ネットワークの効果的な形成を図りながら、遊びを通して生物多様性を学び人と自然が共に育つ社会をつくる。 ③ビオトープの設置過程、その後の維持・活用段階を通して、こども園と地域のつながりを強化する。
-----	----------	--

事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ①園庭や身近な公園にある自然に触れることが増え、子どもの興味関心が深まった。地域のさまざまな講師との出会いにより、自然への関わり方、生き物の生態についての学びの場となった。 ②ビオトープ作りの計画、設計、実施を遊びの中で行った。そのなかで生態系を知り、自然界の循環に気がつくきっかけになった。 ③ビオトープ池設置のために、地域の生態系調査員や建築のプロに協力を仰ぎ実施した。以前はなかった繋がりが新たに増え地域とのつながりは活発になっている。
-----	-------------	---

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ■ビオトープ池づくり ・6月21日(水) 園庭、周辺緑地調査 ・7月26日(水) 自然遊びとワークショップ① 「園庭で自然遊び」+「価値観の共有」 ・9月27日(水) 自然遊びとワークショップ② 「夏の自然遊び」+「アイデアを広げる」 ・10月11日(水) 自然遊びとワークショップ③ 「秋の自然遊び」+「コンテンツ検討・整理」 ・冬季 ビオトープ池作り(冬) 「ビオトープ池づくり、池の造成」 ・早春 ビオトープ池作り(早春) 「ビオトープ池づくり:水生植物の移植」 ■グリーンコーナーづくり ・9月 グリーンコーナーのスペースの新設 ・10月 グリーンコーナーに土の搬入、苗植え ・11月以降 菜園の管理、整備、野菜の世話、収穫
---------	--

事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・一年を通して継続的な取り組みだったため、子どもの興味が途切れることなく実施ができた。自然遊びをしながら子どもの発見したことや不思議を職員間で共有し、ビオトープ作りにつなげることができた。さらに園庭に生き物を呼ぶために、子どもが考えた設計図を基に花壇を作成し、工具の使い方や原理を学ぶ機会となった。
-----	-------------	---

<p>6 環境構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然遊びワークショップは、園内外で実施。講師が午前中の主活動から参加し、子どもや職員と一緒に園庭や近隣の公園で自然遊びを行う。午後は午前中の主活動を題材に、園内研修を実施。ワークショップ以外の時間も子どもたちや職員と一緒に昼食をとり、その日の活動を振り返ったり互いに感想を話し合いながら交流も深めた。 ・ビオトープは園庭の一部に、子どもと共に手作りで作る。いつでも子どもが生活や遊びの中でビオトープを気にかけて観察できるようにした。 ・ビオトープを作ることが目的にならないよう、職員の価値観や目標を共有する時間を前半3回のワーク多く持ち、後半2回でビオトープづくりを始める。 ・建築やものづくりのプロの力を借りて、グリーンコーナーづくりを行なった。道具の使い方、ものづくりの工程などを学ぶ。将来子どもたちが様々な仕事に興味を持てるよう、その道のプロとの交流を含めて行った。
<p>事業後 6についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>むしむしクラブや自然遊びワークショップを行ったことで、自然との関りが日常的に行われ、小さな生き物の命の尊重もするようになった。この取り組みを行う前は、虫探しとなると捕まえて満足、捕りすぎて虫がいなくなるという現象が起きていたが、現在は「生き物を捕まえたら、もといた場所に返す」ということが当たり前になった。また、その道のプロを講師に招いてワークショップやビオトープづくり、グリーンコーナーづくりをすることで、子どもも職員も自分たちで作れ出す楽しさややり甲斐を感じられた。農具や工具など専門的なものを使うことで、子どもたちは遊びを通して「数量や図形」への関心が高まり、実体験が数や重さの概念につながった。</p>
<p>7 期待される効果 児童の姿</p>	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然の中で生き物や植物との不思議な出会いを通して、健康で心豊かな人間が育つ。また、日常の遊びの中でビオトープを活用することで、生き物の命の尊さやそのくらしについての理解が深まり、思考力の芽生えや道徳性が育まれる。 ・ビオトープ作りに関わったことで自分の園や地域に愛着を持ち、地域の自然を大切にしようとする。ビオトープづくりを通して自然と人の共生や生物多様性についての意識が高まり、教育保育に効果的に子どもにも還元することができる。 ・ビオトープづくりをこども園、保護者、地域住民と一緒に行うことにより、お互いに理解が深まり、地域で子どもたちを育ててもらえるようになる。 ・グリーンコーナーの整備や栽培を通して、楽しみ、失敗、解決を繰り返しながら、食に関心を持つと共に、畑の始まりから終わりまでを体験することができる。
<p>事業後 7についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>法人の理念でもある「自然から学ぶ」という機会を多く持つことができた。また、自然に関わりながら遊んだり、生き物の棲みかをつくったり、ものづくりを行なうことで、一人ひとりが主役になれる場面があり、子どもたちの中で「共同性」や「道徳性・規範意識の芽生え」が育まれた。今回の活動後には、子ども同士で相手の良いところを認め合ったり、苦手なことがあっても友だちの力を借りればできるという自信がつくという効果も見られた。自然は全ての子どもを受け入れてくれ、誰にでも好きなことや得意なことを与えてくれた。</p>
<p>8 効果検証 総括</p>	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <p>自然遊びワークショップに参加する前から自然や虫への興味はあった。一方で虫を捕まえたらそのまま放置してしまい、死んでしまうこともあった。そのような中で外部からの指導者が来て、自然は楽しいということ、どうやって関わっていけばいいのかということを知り、実際に体験することができた。ワークショップを通して虫にも命があるということが分かり、生き物を大切にしようという思いやりの気持ちが芽生えてきた。そして虫の食べ物や隠れる場所など環境(ビオトープやグリーンコーナー)を自分たちで用意したいとなり、みんなで力を合わせて作った。そのような取り組みの中で一人ひとりが主役となり、主体性をもって取り組むことができた。デジタルデバイスを使うことによって、子どもの主体的な活動の広がりも見えた。子どもたちの興味は多岐にわたり、その興味をiPadで記録し、記録した物を発表したり振り返りの掲示物をつくることで、仮説を立てたり問いを持ち、問題解決することも日常になるという効果が得られた。</p> <p>今回、自然とのかかわりの中で生き物や自然との距離感、力加減、想像力、思いやりの心が育まれた。これからはビオトープやグリーンコーナーでの活動は続いていく。子どもたちと一緒に今回学んだことを継続して取り組んでいきたい。そして今後も自然から学ぶことを大事にしていきたい。</p>